



※旅リハとは？ 障がいと向き合いながら、環境を限定しない活動行為の獲得や、活動範囲の拡大、自立した社会参加へ繋げていくことを目的としたツアー旅行



旅リハボランティアリーダーの感想

創心会訪問看護ステーション
理学療法士 千葉 好浩

今回で旅リハは5回を迎え、私自身第1回目から参加し、毎回ご利用者様と共に有意義な時間を過ごすことができます。今回、初めて参加されたご利用者様の奥様より感想を頂いたことで、改めて旅リハを振り返ることができ、感謝と感動を頂きました。初めての旅リハ参加は、期待と共に不安もあったことだと思います。当初は車椅子を使用する予定でしたが、ほとんど車椅子を使用することなく1日を過ごされたことは、ご本人様だけでなく、ご家族の方にとっても大きな意味ある1日であったことでしょう。「やればできる」、「もっとできるをもっと知ろう」創心会の今期の方針にもあったようにその現場を身近で見させて頂き、ご利用者様だけでなくご家族の可能性を引出せる関わりを、今後も積極的にしていきたいと実感しました。今回の旅リハでは特に、ご家族の方とご利用者様との絆を感じることができました。ボランティアリーダーとしてまだまだ課題はありますが、夢を実現できる独自の旅リハを今後、企画していきたいと思ひます。

ご夫婦で旅リハに参加された奥様より



「旅リハ」実現しました

2年前、夫の肝臓に癌が見つかりました。手術後いろいろな病を併発し、夫は介護が必要な身体となりました。病院通いと介護の日々が2年間続きました。「夫が生きてくれるだけで嬉しい！旅行なんて夢！」と思っていた私にとって、この旅行企画は心躍るものでした。創心会の職員の皆様方と、吉備国際大学のボランティア学生さんに助けられて夫の体調に合わせた「旅リハ」を無事にこなすことができました。「旅リハ」で一番楽しんだのは、夫より私の方だと思います。

帰宅後さっそく夫に言いました、「私を四国につれて行ってくれてありがとう。本当に楽しかったわ！」

※ご利用者様の奥様からのお手紙より抜粋

旅リハでは、回を重ねるごとにこういった素敵なドラマが沢山生まれています。次回は、6月16日。多くの方のご参加をお待ちしております。



旅リハのしくみ

日頃の訓練の効果確認・「できる」の確認と強化

- ・新しい目標の設定
- ・ピアグループの形成
- ・「できる」ことの実感
- ・課題の発見



旅リハ

主催 (株)創心会
実施者 旅行会社

- ・自宅から集合場所までの移動
- ・バスへの乗降、長時間の座位保持
- ・健康管理と変化の訴え
- ・移動、トイレ、食事などの生活行為
- ・参加者との協調性

創心会 介護保険サービス ご利用者様

- ・デイサービスでの機能訓練
- ・訪問でのリハビリテーション



心
創
から



障がいがあるからこそ「できる」
ピアでありスタッフだから果たせる役割

特集 ピアだから伝わる心に響く言葉

ご利用者様から
スタッフへ その道のり

- 01 創心会デイサービスの取り組み
- 02 創心会訪問看護ステーション
- 03 第5回旅リハ:旅行を通じてのリハビリ
スタッフレポートとご利用者様の感想

特集 ピアだから伝わる心に響く言葉

ご利用者様からスタッフへ その道のり

先の見えない闇から抜け出たきっかけ

創心會スタッフ大楽 陽子さん。明るく社交的な今の彼女からは想像できませんが、その過去は壮絶です。大楽さんは若くして、くも膜下出血を発症しました。その後、後遺症から左半身麻痺となり、「無力感」「孤立・孤独感」「混乱」「不安」などから精神的に塞ぎ込んだ日々が続きました。統合失調症・鬱・拒食症を抱え、身体は痩せ細り、外出の気力も起きない日々。それは、絶対に戻りたくないと思わせるほど辛い日々だったそうです。その日々を劇的に変えたターニングポイント。それは、創心會訪問看護ステーションの石井さんとの出会いだったと彼女は語ります。

第2ステップ「外へ」

大楽さんと創心會訪問看護ステーションとの出会いは、病院の紹介によるものでした。担当になった石井さんは作業療法士。「リハビリは身体の為」当初そう思っていた大楽さんの考えは良い意味で裏切られる事になりました。石井さんとの関わりの中「前へ進もう！大丈夫！」「私もいるし大丈夫！」その声掛けで、次第に心の紐を解かれていったのだと大楽さんは当時を振り返ります。彼女のその変化を感じ取ったかのように、石井さんは大楽さんに次なるステップを投げかけます。——外へ出てみませんか？

家の中ではなく、場所を変え、創心會リハビリ倶楽部新涯で働いてみませんか？そう投げかけたのです。大楽さんの率直な感想は「怖い。」でした。それでも前進できたのは石井さんの「大丈夫！」の声と、何より「ピンチはチャンスだ！」と思えるように変わっていた大楽さん自身の精神的な回復によるものでした。

ピアでありスタッフとして出来る事

大楽さんは今、創心會リハビリ倶楽部新涯のスタッフとして環境整備に携わっています。センター長からの提案で、週2回習字をご利用者様に教えるようにもなりました。また、スタッフとして勤務を始めてから、創心會グループ会社ハートスイッチ*主催のヘルパー2級取得講座にて資格を取得する快挙も果たしました。

大楽さんが、ご利用者様との関わりの中で大切にしていること。それは「声掛け」です。石井さんから貰った「大丈夫！」の声掛けも、今度は大楽さんからご利用者様へ投げかけられています。「大楽さんとご利用者様との関わり方は、他のスタッフとは全然違う。大楽さんが動いているだけで自分も出来ると思って頂ける。ピアグループの形成という面でも繋ぎ役となっていて、同じ辛さを経験している分言葉の重さが違います。」そう語るのは、創心會リハビリ倶楽部新涯センター長の難波さん。

障がいがあるからこそ伝わる言葉。ピアにしか語れない感情。ピアでありスタッフだから果たせる役割を誇りに、大楽さんの挑戦は続いています。

*ハートスイッチは、株式会社創心會のグループ会社で障がいの者
就労支援や、介護・福祉系資格取得講座などを行っています。



創心會リハビリ倶楽部 新涯
(環境整備担当)
大楽 陽子さん

01 創心會デイサービスの取り組み

「参加型 体験見学会」開催

キーワードは「参加型」。ご利用者様が大活躍！

3月14日、15日の2日に渡り「創心會リハビリ倶楽部益野 参加型体験見学会」が盛大に開催されました。あえて「参加型」と謳っているのには理由があります。まず第1にご利用者様の参加。ご家族や担当ケアマネジャーの方など、それぞれの関係者の方にご利用者様ご自身が案内状を出され、当日の運営もご利用者様が主体で行います。各々のメニューにはご利用者様が「先生」として担当につき接客をされます。そして第2に来場者の参加。来場された方々には、まず、施設内通貨10ま〜ブルをプレゼント。ま〜ブルは、マシントレーニング、床体操、肋木での訓練など、ご利用者様が普段行っているトレーニングを体験することで稼ぐことが出来ます。そして、そのま〜ブルを使って、美味しいスイーツを食べられたり癒しの体験ができます。だから「参加型」。会場に着くなり、受付担当のご利用者様が笑顔でお出迎え。おもてなしの心いっばいに説明していただきました。説明を聞き期待感も高まる中、早速、賑わう会場へ！「これは腹筋と背筋を鍛えるマシンです。重さは段階に合わせて調整してください。無理しないでいいですからゆっくり…」と話して下さったのはスタッフではなくマシン担当のご利用者様。流暢な説明に思わず聞き入ります。そして、次は稼いだま〜ブルを握りしめてスイーツコーナーへ。こちらでは、元菓子職人のご利用者様が「みどりちゃん」*を使ったどら焼きを手際よく作って下さいました。併せて、ご利用者様の点てられたおいしいお茶も頂くことができ、至福の時間を過ごすことができました。

ご利用者様の主体的な活動が醍醐味となった今回の見学会。大いに盛り上がり、参加頂いたご家族からも次回の開催が楽しみ！との声を頂きました。

*「みどりちゃん」は、創心會グループ会社である
就労継続支援事業所 未来想造舎和一の商品です。



02 創心會訪問看護ステーション

一人ひとりの目標に沿って個別性の高いサービスを 言語聴覚士と看護師のチームケア

創心會訪問看護ステーションでは、看護師・作業療法士・理学療法士・言語聴覚士らが小児から高齢者まで幅広く対応し、ご利用者様一人ひとりに応じて目標を定め、個別性の高いサービスを展開しています。今回は、言語聴覚士と看護師のチームケア現場のレポートをお伝えします。

言語聴覚士 大石 廣さんと看護師 宇野 百合子さん。訪問に向かう車内でも、ご利用者様の状態や今後のケアについて話が尽きません。普段はとても穏やかな雰囲気の大石さんですが、現場に入ると空気は一変します。残存能力を最大限に発揮できるよう、残された微かな機能を見つけだしダイレクトアプローチしていきます。その隣で宇野さんは、ご本人を含めご家族にも絶妙なタイミングで話しかけ激励しつつ、大石さんにはご本人の変化を的確に報告します。一瞬も無駄のないサービスは、スムーズ且つ安全に進行します。

高齢者の入院原因としてよく挙げられるものの中に、誤嚥性肺炎があります。誤嚥性肺炎の予防は、食事の内容・環境・方法や口腔ケアがポイントです。大石さんは、食べ物を飲み込む時の咽喉の動き、一口量、スプーンの大きさ、義歯の具合、食事の形態、食事姿勢等を細かく分析します。身体機能だけでなく環境設定にも配慮しながら、ご利用者様の意向に添ったケアプランをチームにより総合的に実践することで、安全においしく食事をしていただけるようサポートします。訪問看護ステーションのみならず、創心會は包括的本物ケアチームとして更に地域に貢献していきます。

